

「専攻科福祉専攻の閉科」に寄せて

豊橋創造大学短期大学部
元教授 藤本 逸子

介護福祉士の養成を行っていた専攻科福祉専攻が幕を閉じると聞き、非常に残念でなりません。介護福祉士の国家試験の受験資格を得る方法は複数ありますが、短期大学等で保育士資格を得た学生が1年間みっちり学ぶことによって、介護福祉士国家試験受験資格を得ることに、大きな意義があるように思います。

保育士資格を得る学びの中で、福祉の心とは何か、成長・発達とは何か等を理解します。その上で、介護に関する学びをすることで、介護に対しても、保育に対しても、人間の一生を見据える視野の広さと福祉への洞察の深さが発揮されます。これは、なかなか得難いことです。

豊橋創造大学短期大学部専攻科福祉専攻の大きな特徴は、学びの集大成として、ケーススタディの研究発表会を公開で行うことです。学内の学生・教職員だけではなく、学生が介護実習でお世話になった施設、また、卒業生の就職先の施設の職員の方々にお越し願って、学生の発表をお聞きいただき、ご意見・ご質問・ご指導をいただきます。ご参加くださった施設職員の中には、施設内の新人介護士を指導する立場となっている頼もしい本学専攻科福祉専攻卒業生もいます。

学生が発表するケーススタディは、ICF（WHOにより制定された「生活機能・障害・健康の国際分類」）を用いて、利用者さんを多面的に理解するところから始まります。学生の発表を見ると、学生の頑張る力、努力する力を強く感じます。その力を引き出す、大林先生をはじめとしたご担当先生方のご指導のきめ細かさと情熱を感じます。多くの時間と心かけた成果だと思えます。

ICFを知らない介護福祉士はいないと思えますが、ICFをここまで理解し、日々の介護に生かすことのできる介護福祉士はそれほど多くはないと思えます。これは、豊橋創造大学短期大学部専攻科福祉専攻の「宝」です。誇りに思います。このような学びができた本学専攻科福祉専攻の学生は幸せです。

しっかりとした介護の理論的抑えと理解、実践的技術と福祉の心を身につけた卒業生が、介護福祉士・保育士として愛知県と静岡県を中心に活躍しています。嬉しいことです。社会貢献のリーダー的存在として、これからの日本の福祉を牽引していってくれることでしょう。